

群 教 セ	G14 - 02
	令 7.290集
	総合的な学習 の時間 - 中

探究心をもち、振り返りで学びをつなぎ、 深められる生徒の育成

——小単位をつなぐ「探究課題」の発見と
探究のサイクルを回す「問い」の発見——

特別研修員 生方 裕一郎

I 研究の概要

1 主題設定の理由

令和7年度群馬県学校教育の指針では、「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」ことを掲げている。生徒がエージェンシーを発揮し、主体的に学びを進めることで自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会の実現につながるとされている。また、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編では、「よりよく課題を解決し、自分の生き方を考えるための資質・能力を育むためには、自ら問いを見いだし、課題を立て、よりよい解決に向けて主体的に取り組むことが重要である」と示されている。これらは、生徒が受け身ではなく、自律的に学びを深めていくことの重要性を示しており、特に総合的な学習の時間においては、生徒自らが探究のサイクルを発展的に繰り返すことで、他者と協働しながらよりよい社会や未来を形成する力の育成につながることを示唆している。

研究協力校（以下、協力校）の生徒は、総合的な学習の時間において、友達と話し合い、協力しながら意欲的に学習活動に取り組んでいる。特に探究の「まとめ・表現」の段階では、調べたことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるために、資料を工夫して作成し、発表することができている。一方で、「課題の設定」の段階では、実社会や実生活の中で感じた課題意識に基づいて探究課題を設定することを苦手とする生徒が見られる。これは、自分たちの探究活動を振り返り、自己の学びや、探究の仕方に関して成果と課題を捉え、新たな問題発見につながる経験が十分でないことに起因すると考えられる。その結果、探究課題を自分事として捉えることができず、探究のプロセスが単発的な活動にとどまったり、次の学びに発展しづらくなったりする状況が見られる。

このような状況を踏まえ、総合的な学習の時間において生徒が自ら学びを深めていくためには、生徒の内に生じる「探究心」が原動力となると考える。この探究心を継続的な学びへと発展させるためには、特に小単位の終末で次の小単位に向けた新たな探究課題を設定したり、単位時間の振り返りの場面で新たな問いを立てたりすることが、探究のサイクルを循環させる上で重要であると考えた。

以上の考えから、本研究では「探究心をもち、振り返りで学びをつなぎ、深められる生徒の育成」を主題とする（図1）。

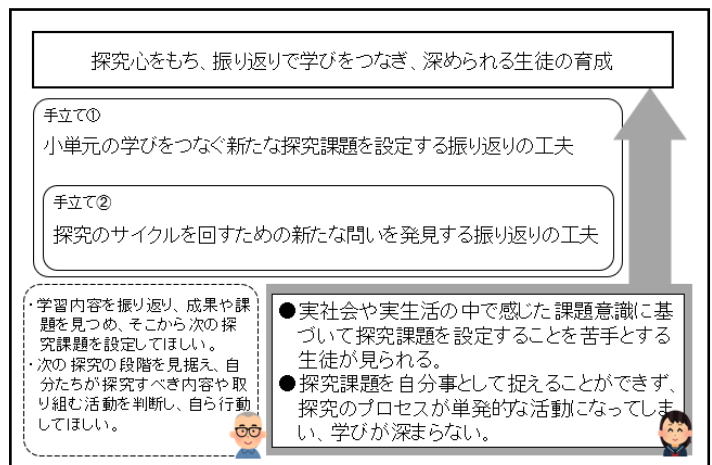


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

探究心をもち、学びをつなぎ、深められる生徒を育成するために本研究では以下の二つの手立てを講じることにした。「探究心」とは、総合的な学習の時間において、「興味や関心から課題を見

付ける」「その課題を解決するために主体的に行動する」「物事の本質を深く理解しようと試みる」などの姿勢や意欲のことである。

手立て1 小単元の学びをつなぐ新たな探究課題を設定する振り返りの工夫

小単元終末に、それまでの「探究内容」と「探究の進め方」の成果と課題を振り返り、そこから、課題に対する改善策を考えたり、次の探究活動に向けての見通しをもったりする場面を設ける。それを踏まえて、次の小単元や単元でどのような探究課題を設定するかを考える。そうすることで、課題を自分事化し、探究心をもって小単元や単元をつなぎ、学びを深めていけるようにする。

手立て2 探究のサイクルを回すための新たな問いを発見する振り返りの工夫

「情報の収集」や「整理・分析」の場面で、それまでに収集、分析した情報を振り返り、そこに不足している情報や更に知りたい情報と、その情報の収集方法などの新たな問いを見いだす場面を設けることで、生徒が次の学習や活動の見通しをもち、探究心を高め、継続的に探究のサイクルを回すことができるようにする。

II 実践例

1 単元名 「働く人の思いを知り、よりよい自己の生き方を考えよう～東京旅行、職場体験を通して～」(第2学年)

2 授業の実際

実践授業①(全46時間計画の第17時1学期)では、主に手立て1に関して実践を行った。小単元「東京旅行」が終わり、次の小単元「職場体験」につながる場面において、東京で働く人へのインタビューや職場見学を通して分かった働く人の思いから自身の職業観の変化を感じ取り、更に知りたくなったこととそれを知るための方法を考えた。東京旅行での活動を通して分かったことを基に、生徒は市内で働く人の思いを予想し、職場体験で興味のあるカテゴリと、取り組みたい新たな「探究課題」を考える活動を行った。

実践授業②(全46時間計画の第37時2学期)では、主に手立て2に関して実践を行った。市内の職場体験で得た情報を整理、分析する場面において、東京都と市内それぞれで働く人の思いを比較し、市内の事業所の困り感に対して自分たちにできる活動を考えた。具体的な活動を考えるために、職場体験での探究活動や学びを振り返ることで、自分たちに不足している情報や更に必要な情報は何か、その情報をどうすれば得ることができるのかという視点で新たな問いを立てた。

(1) 手立て1について(実践授業①から)

生徒は、東京で働く人へのインタビューや職場見学を通して、「働くこと」や「働く人の思い」についての考えが変化したり(図2)、新たな視点や考えを得たり(図3)することができた。また、東京旅行前に疑問に思っていたことに対する答えを見付けられた(次ページ図4)生徒もいた。

1. 東京旅行でのインタビュー活動と見学を振り返ろう
○ 「働くこと」や「働く人の思い」について
これまでの自分の考え 大変でやられている感じ、お金を稼ぐため、自分のため
東京旅行
今の自分の考え 大変だけでもそれ以上のやりがいを感じている人が多い。働くことで地域や社会など周りの支えにもなっている

図2 職業観の変化①

○ 「働くこと」や「働く人の思い」について
これまでの自分の考え お金を稼ぐために働いている 同じことを繰り返している
東京旅行
今の自分の考え 自分のやっていて楽しいことに生きがいを持って働いている 変化がないからこそ面白い

図3 職業観の変化②

る。東京で働く人と市内で働く人の思いを比較しやすいように、東京旅行でインタビューしてきた働く人の思いを一覧としてまとめておき、それと見比べながら分類できるようにした。市内の職場体験で「働く人の思い」を重点的にインタビューできた班は、共通点と相違点に多くのカードが入った。

しかし、図8のように、職場体験をした事業所の困り感に対して自分たちにできることを考える活動では、「共通点」と「相違点」で分類した思いごとではなく、ひとくくりに「働く人の思い」として扱い、考えをまとめていた。授業者としては、「共通点」からは東京で行われている活動が地元でもできないか検討し、「相違点」からは、地元の強みを生かした活動や弱みを克服するための活動を考えられると想定していたが、「共通点」「相違点」と分けるのではなく、「働く人の思い」としてひとまとめにして考える方が、生徒の思考に沿っていた。

図9は、1時間の「探究の段階」、「やったこと・分かったこと」「他の教科の内容で使ったこと」「次への課題」を記入した振り返りシートである。「他の教科の内容で使ったこと」は、総合的な学習の時間とつながりそうな各教科の学びや活動を挙げて番号をつけた一覧を用意し、その中から生徒が選んで、番号を記入する。図8、図9の生徒は、小学校に職場体験に行き、人手不足で困っているということに対して、先生を増やすにはどうすればよいのか、そもそもなぜ教員になろうとしている人が減っているのかを知りたいと、収集した情報を基にして、不足する情報や更に知りたい情報について考えることができていた。そこから、次の時間には教員数の変化を教育委員会のホームページで調べることを決めていた。

事業所が困っていること、こうなってほしいと思うこと ・人手不足に困っている。より多い人数で仕事をする方が良いと言っていた。 ・授業中に席を立つ児童や、喧嘩する児童がいても、教員の数が少なく対応しきれない。
自分たちができそうなこと ・先生を増やす。 ・先生の困っていることを聞く。
不足している情報・さらに知りたい情報 ・先生の仕事を楽にするにはどうしたらいいか。 ・先生を増やすにはどうしたらいいか。

図8 分類した情報から検討

NT 振り返りシート

前回の課題をふまえて、次の振り返りを書く

日時	やったこと・わかったこと	他教科の内容で使ったこと
11/2 (木)	<input type="checkbox"/> 課題の設定 <input type="checkbox"/> 情報の収集 <input type="checkbox"/> 整理・分析 <input type="checkbox"/> まとめ・表現 ・人手不足になっている。・やりたい勉強をさせたい ・コミュニケーションを取るのが大変 ・先生を増やす、困っていることを聞く	国語① 社会②
新たな問い	なぜ教員になろうとしている人は減っているのか	

図9 生徒の記述

III 研究のまとめ

1 成果

- 「探究内容」と「探究の進め方」の二側面から振り返りをしたことで、次の探究のイメージをより具体的にもち、新たな探究課題の設定につなげることができた。
- 成果と課題を振り返り、予想を立てることで興味・関心を高め、課題を自分事として捉え、設定することができた。また、情報の整理・分析を通して主体的に新たな問いを立てる姿勢が見られた。
- 課題を探究する中で、生徒は、働く人の思いに向き合い、自己を見つめ直し、「働くこと」とはどういうことなのかという問いの本質に迫ろうと、探究的な学びを深めることができた。

2 課題

- 班の課題と逸れた成果と課題を挙げた生徒がいたため、「探究内容」と「探究の進め方」の両方について考えるということ、掲示物などを用いて二つの視点を明示する必要がある。
- 振り返りを通して自らの思考の変容に気付けたものの、それを新たな探究課題の設定や問いの発見に生かせない生徒がいたため、自他の振り返りの記述を参考にさせるなど思考の変容を再確認してから探究課題や問いを考えさせる必要がある。